

「美術館」の本

これがオススメ!



ニュー・ミュージアム
現代美術・博物館建築の旅
ミミ・ザイガー／著
鹿島出版会 2007

近年、建築そのものへの関心がさらに高まっているように感じる美術館。この本は世界各地の美術館を建築物として写真とともに紹介した一冊。建物としての美しさや奇抜さと、建築家たちの想いが伝わってくる。眺めるだけでも楽しめる。

みてまわる日々 堀井和子／著 幻冬舎 2008

雑誌ku:nel等でも活躍する堀井和子さんが、モレスキンのスケッチノートを片手に美術館やギャラリーへ。「写真より下手なラフスケッチが役に立つ。自分がどこに魅かれたかが簡素なラインに正直に出ているような気がする」とある。エッセイや写真とともに構成された本書は、著者のセンスの良さがにじみ出ている。

美術館へ行こう 草薙奈津子／著 岩波書店 2013
(岩波ジュニア新書 737)

平塚市美術館の館長である著者が「美術館」とは何かを分かりやすくまとめた一冊。日本全国に向けて発信する企画展と地域の人々へ還元するためのワークショップの話や、展覧会へ向けた複数年に及ぶ準備の話など、想いや裏側が見えてくる。「一に体力、二に愛嬌、三、四が無くて五に知力」という学芸員の仕事。学芸員を目指している人にも読んでもらいたい。

絵本美術館のある旅
MOE編集部／編
白泉社 2011

日本全国の絵本美術館47館をジャンル別に紹介した一冊。住所やアクセス、開館時間などのデータが付いているので便利。雑誌「MOE」に掲載されたのを再構成している。新しい絵本との出会いを求めて、子どもだけでなく大人も出かけたくなる。

ミイラにダンスを踊らせて メトロポリタン美術館の内幕

トマス・ホーヴィング／著 白水社 1994

1967年から10年間ニューヨークのメトロポリタン美術館の館長だったトマス・ホーヴィングの自伝的著作。作品買い付けのための資金繰りやクセのあるキュレーターたちとの攻防、理事会やコレクターたちとの駆け引き等、こんなに美術館ってドラマチックなの?と驚く。大部な一冊だが、美術に詳しい人も、そうでない人も間違いなくのめり込める。

夢みる美術館計画 ワタリウム美術館の仕事術 和多利志津子／著
日東書院本社 2012

東京の青山にプライベート美術館を作った和多利さんご家族。海外の建築家に美術館の建築を頼み、完成した美術空間で写真展や建築展、屋外展を企画する。アーティストとの交流も大切にしながら、「アートとは何か」を自問し続ける活動が表現されている。

マンガ美術館&スポットガイド イラストエッセイ 進藤やす子／著
技術評論社 2006

マンガの作家や作品別に美術館があるなんて! 水木しげるや長谷川町子だけでなく、石ノ森章太郎や水島新司、いがらしゆみこなど懐かしがる方もいるのでは? イラストエッセイで紹介されているので、読みやすく楽しめる。歴代勢ぞろいのリカちゃんキャスルって…気になる。

美術館にもぐりこめ!
さがらあつこ／文
福音館書店 2013
(たくさんのふしぎ傑作集)

美術品を盗もうと美術館に入り込んだ盗賊団の視点で、美術館の中が暴かれるおはなし! 学芸員や美術品運搬、警備、空調、掃除、受付、それぞれのプロの仕事ぶりが紹介されている。児童書だが、大人が読んでも面白い。

ミュージアム・レストランガイド 見たい食べたいお散歩ブック 畑中三応子／著 朝日新聞社 2007

様々な美術館ガイドブックがあるが、美術館のレストランを扱った本は珍しい。美味しいものを食べに美術館へ足を運ぶのはいかが? 作品を鑑賞するだけではない、別の楽しみが味わえる。

美術館をめぐる対話
西沢立衛／著 集英社 2010
(集英社新書0564)

十和田市現代美術館や金沢 21 世紀美術館を作った建築家、西沢氏と美術館に関わる人々との対談がまとめられている 1 冊。美術館は美術を保存し、展示する場であるだけでなく、人々が集まり何かを共有したり、自ら何かを創造する場にもなると言う著者。問題を提起していくような開かれた美術館をつくるのが、建築家の重要な役割だと考える西沢氏の作品を体験してみたい。美術館建築に興味のある方もない方も、ぜひ!

東海美術館・博物館ベストガイド アミューズ／著
メイツ出版 2004

東海エリアの美術館などにアンケートを実施、代表作や逸品を聞いて作成したというベストガイド! この地域に住んでいるからこそ気軽に楽しめる見逃せない名品たちを見に出かけたい。

日本の美術館と写真コレクション 松本徳彦／著
淡交社 2002 (東京都写真美術館叢書)

日本の美術館とその写真コレクションがまとめられた一冊。巻末には美術館索引と作家索引が付いている。「写真」という視点で美術館に触れるのも、また興味深い。